

令和6年度

希望が丘高等学校一般入学者選抜試験

国語

問題冊子

注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから8ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

受験番号					出身中学校		氏名
------	--	--	--	--	-------	--	----

問題は、次のページから始まります。

一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

子どもは「ふしぎ」と思う事に対して、大人から教えてもらうことによって知識を吸収していくが、時に自分なりに「ふしぎ」な事に対して、自分なりの説明を考えつくときもある。子どもが「なぜ」ときいたとき、すぐに答えず、「なぜでしょうね」と問い返すと、面白い答が子どもの側から出てくることもある。

「お母さん、せみはなぜミンミン鳴いてばかりいるの」と子どもがたずねる。

「なぜ、鳴いてるんでしょうね」と母親が応じると、

「お母さん、お母さんと言って、せみが呼んでいるんだね」と子どもが答える。そして、自分の答に満足して再度質問しない。これは、子どもが自分で「説明」を考えたのだろうか。

それは単なる**外的な**「説明」だけではなく、何かあると「お母さん」と呼びたくなる自分の気持ちもそこに込められているのではなからうか。だからこそ、子どもは自分の答に「納得」したのではなからうか。そのときに、母親が「なぜって、せみはミンミンと鳴くものですよ」とか、「せみは鳴くのが仕事なのよ」とか、

答えたとしても「納得」はしなかったであろう。たとい、せみの鳴き声はどうして出てくるかについて「正しい」知識を**A**キョウキョウしても、同じことだったろう。そのときに、その子にとって納得のいく答というものがある。

「そのときに、その人にとって納得がいく」答は、「物語」になるのではなからうか。せみの声を聞いて、「せみがお母さん、お母さんと呼んでいる」というのは、すでに物語になっている。^①外的な現象と、子どもの心のなかに生じることがひとつになって、物語に結晶している。

人類は言語を**B**用いはじめた最初から物語ることをはじめたのではないだろうか。短い言語でも、それは人間の体験した「ふしぎ」、「おどろき」などを心に**C**オサメルために用いられたであろう。

古代ギリシャの時代に、人々は太陽が熱をもった球体であることを知っていた。しかしそれと同時に、彼らは太陽を四頭立ての金の馬車に乗った英雄として、それを語った。これはどうしてだろう。夜の闇を破って出現して来る太陽の姿を見た時の彼らの体

験、その存在のなかに生じる感動、それらを表現するには、太陽を黄金の馬車に乗った英雄として物語ることが、はるかにふさわしかったからである。

かくて、各部族や民族は「いかにしてわれわれはここに存在するのか」という人間にとって根本的な「ふしぎ」に答えるものとしての物語、すなわち、神話をもつようになった。それは単に「ふしぎ」を説明するなどというのではなく、存在全体にかかわるものとして、その存在を深め、豊かにする役割をもつものであった。

□、そのような「神話」を ^c現象の「説明」として見るとどうなるだろう。確かに英雄が夜ごとに怪物と戦い、それに ^dシヨウリして朝になると立ち現れてくるという話は、ある程度、太陽についての「ふしぎ」を納得させてくれるが、そのすべての現象について説明するには都合が悪いことも明らかになってきた。たとえば、せみの鳴くのを「お母さんと呼んでいる」として、しばらく納得できるにしても、しだいにそれでは都合の悪いことがでてくる。

そこで、現象を「説明」するための話は、なるべく人間の内的

世界をかかわらせない方が、正確になることに人間がだんだん気がつきはじめた。そして、その傾向の最たるものとして、「自然科学」が生まれてくる。「ふしぎ」な現象を人間から切り離れたものとして観察し、そこに話をつくる。

②このような「自然科学」の方法は、ニュートンが ^e試みたように、「ふしぎ」の説明として普遍的な話（つまり、物理学の法則）を生み出してくる。これが、どれほど強力であるかは、周知のとおり、現代のテクノロジーの発展がそれを示している。これがあまりにも素晴らしいので、近代人は「神話」を嫌い、自然科学によって世界を見ることに心をくすくすさせた。これは外的現象の理解に大いに役立つ。しかし、神話をまったく放棄すると、自分の心のなかのことや、自分と世界とのかわりが無視されたことになる。せみの鳴き声を母と呼んでいるのだと言った坊やは、^d科学的説明としてはまちがっていたかもしれないが、そのときのその坊やの「世界」とのかかわりを示すものとして、もつとも適当な物語を見出したと言えることができる。

（河合隼雄『子どものいのち』による。一部改変）

問一 傍線部 A～E の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。(なお、送り仮名が必要なものは、平仮名で正しく送ること。)

問二 空欄 に入る適当な語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかも イ つまり ウ ところが エ あるいは

問三 傍線部 ①「外的な現象と、子どもの心のなかに生じることとがひとつになって、物語に結晶している。」を具体的に言い換えた次の一文の空欄 I、 II に入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、I は六字以内、II は二十字以内とする。

I と II とが結びついて、「せみがお母さん、お母さんと呼んでいる」という表現が生まれている。

問四 波線部 a～d で、表している内容が他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問五 次の文章は、本文中で述べられている「物語」と「神話」についてまとめたものである。空欄 I、 II に入る適当な語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「物語」も「神話」も、自分の体験した「ふしぎ」や「おどろき」を I によって説明し、心におさめるためのものである。しかし、「神話」は個人の「ふしぎ」を説明するだけでなく、ある部族や民族にとって、自分が II することの意味を明らかにし、生を豊かにする役割をもつものである。

- I (ア 言語 イ 科学 ウ 感動 エ 知識)
- II (ア 体験 イ 存在 ウ 説明 エ 観察)

問六 傍線部②「このような『自然科学』の方法」について、次の深見さんと中西さんの会話を読んで、空欄 I ～ IV に

入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、I は二字、II は二字、III は四字、IV は二字とする。

深見さん…かつて、人間にとっての根本的な現象を物語るものとして神話があったんだね。

中西さん…でも、それだけでは説明できないことも多くて、「自然科学」というものが生まれてきたんだよ。

深見さん…確かに、物理の法則のように、現象を人間から切り離して することで、現象の に役立つよね。

中西さん…そうなんだよ。「自然科学」による発展は素晴らしいんだ。でも、人間の や人間と とのか

かわりが無視されてしまうことになるよね。

問七 本文の内容として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古代ギリシャの時代、人々はできるだけ外的現象と自己の内面とをかわらせないよう、普遍的な「神話」を生み出した。

イ 人間は、ふしぎな現象を「神話」として説明するだけでは都合が悪いので、自分なりに納得のいく「物語」を作り出した。

ウ 「せみがお母さんと呼んでいる」と答えた子どもに、大人が正しい知識を与えれば、新しい「物語」を作ることができる。

エ ふしぎな事に対して子どもが自分なりに作りあげた「物語」はその子と「世界」のかかわりを示しているといえる。

二

次の文章を読んで、後の間に答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

旅館の息子である私(筆者)は、子供の頃、父の作る※₁出汁巻きの味に魅せられ、自分でも作ろうとするが何度も失敗する。それを知った父は、ある日、台所に大量の卵と出汁を用意してくれた。

その日、私は夕食の一時間の休みをA省いて午後の四時から夜の十時までたつぷり五時間も出汁巻きを作り続けた。

大皿には大量の出汁巻きの失敗作がうずたかくBツミ上げられ、流しには大量の卵の殻が散乱した。そして台所中に出汁巻きの甘い香りと焦げ臭い匂いが入り混じって充滿した。その間肝心の父は私のそばについて手取り足取り教えてくれたわけではない。

彼はやってみたい、と言ったまま、あっけなくその場から立ち去って行ったのである。はじめ私は a すかしを食ったような気分になったが、しばらくして子供心に父が私に望んでいることが次第にわかりはじめた。彼は自分の足で歩け、と言っていただけのことだ。誰もそばにいなければひとつひとつ失敗することによって自分一人でその失敗を引き受け、その原因を必死で考えなくてはならない。

ルールだけはひく、あとは勝手にやれ、というそのような①父の態度に、子供の私は自分の人格を認められたような気分にもなった。そしてメラメラと、やる意欲が起こってきた。普段は

飽きつぽく何事も続かない子供が五時間もぶっ続けで出汁巻きを巻くというのは考えられないことだった。その姿を見て母は子供の私に尊敬の念を示したくらいだ。途中で台所に入って来た②母は「卵の殻、かたづけましょうかいの」と、父に言うような敬語を使った。私は「うるさいから向こう行っちゃって」とひとこと言い、母は「はいはい」と言って引き下がった。

結局、その日は失敗の連続でこれといった満足な出汁巻きは出来なかった。【ア】

父が家に帰ってきたのは夜の十時半をまわった頃だった。後かたづけを終えてのち、出汁巻きの失敗の山を前に呆然としていた時のことだった。父は私とその時間まで出汁巻きを作っていたことに驚いたらしい。通りすがりに台所に電灯が灯っているのを見て入口から顔をのぞかせた。

そして出汁巻きの残骸を見るなり「※₂ようけ作ったのお。はっはっはっ」と大笑いした。私はそこでなんらかのアドバイスがあるかと思っていたが、父はそのまま自分の部屋の方に向かった。そして離れぎわに③何食わぬ顔で次のように言う。【イ】

「シンヤ、ひとつだけでええ、学校から帰ってきたら毎日ひとつだけ作るだけでええ」

……たったひとつ？

私はあっけにとられるとともに言葉の意味するところのものを汲み取りかねた。「ウ」しかし翌日から、言われたとおりにたったひとつだけの出汁巻きを作り始める。

それまでの私には大量に用意された卵の前に、失敗すれば次を作ればよいという安直な気持ちはどこかにあった。それが一日ひとつと限定されたことによって一回きりの真剣勝負とならざるをえなかった。日々、卵を前に身の引き締まるのを覚えた。

結局、合計何日間出汁巻きを作り続けたのかはつきりとは覚えていない。「E」ただある日を境にひとつの変化が起きた。

自分の手の動きのぎこちなさがふっと消えたように思えたのだ。④それが妙に客観的に見えるようになった。それまで私は頭で一生懸命に手をコントロールしようとしていた。しかしある時から

b が自然に勝手に自分で動き、**c** がそれを追いつながら見ているという、それまでとは逆の状態が訪れたのだ。

その手を見ながら、ある時、一瞬Dキミヨウな思いが過つた。まるで他人の手のように自分の手を見ながら、自分が※³厨房の

(注) ※¹出汁巻き……だしの入った卵焼き。だし巻き卵。

※⁴こげいでなきや……このようでない。

※²ようけ……たくさん。

※³厨房……台所。

かたわらで見えていたあの父の手が一瞬それに重なり合ったのだ。

その時、後ろで声がした。

「できたか？」

振り向くとそこに父が立っていた。

私は無言でうなづく。

「見してみ」

私は父がいつも私にそうするように、包丁でさつと湯気の立つ出汁巻きのE端を切り落とし、父に差し出す。

父はひよいとそれを口に放り込む。

「ようでけちよる」

父は出汁巻きに目を落とし、ひとことそう言った。

「出汁巻きつちゅうもんは※⁴こげいでなきやいかん」

父はそんな言葉を残し台所を出て行った。いつもの素っ気ない態度だった。だが私は父が去ったあとの台所で小躍りしたい気分を抑えていた。

(藤原新也『名前のない花』による。一部改変)

問一 傍線部 A ～ E の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。(なお、送り仮名が必要なものは、平仮名で正しく送ること。)

問二 空欄 a に入る、身体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問三 傍線部 ①「父の態度」について、

(一) どのような態度か。端的に言い換えた表現を、本文中から七字で抜き出して答えなさい。

(二) 私はどのような気持ちになったか。その答えについてまとめた次の空欄 I、II に入る適切な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、I は十一字、II は四字とする。

私は父から I ように感じて、熱い II が湧いてきた気持ち。

問四 傍線部 ②「母は『卵の殻、かたづけましようかいの』と、父に言うような敬語を使った」とあるが、母が私に敬語を使った理由についてまとめた次の空欄 I、II に入る適切な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、I は三十四字、II は四字とする。

I 姿に、II を抱いたから。

問五 傍線部 ③「何食わぬ顔」という語の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 興味が湧かないような顔 I 動揺しているのを隠すような顔

ウ 笑いをこらえるような顔 E 何も知らないふりをするような顔

問六 傍線部 ④「それ」とは何か。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問七 空欄 b、c に入る適切な語を、本文中からそれぞれ漢字一字で抜き出して答えなさい。

問八 次の中村さんと土田さんの会話を読んで、空欄 、 に入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、Iは七字、IIは九字とする。

中村さん…出汁巻き作りを通して、父は私（息子）に二つのメッセージを送っていたね。

土田さん…うん。一つ目は、誰かに甘えるのではなく、自分で失敗を受け止めて原因を追究する、 というメッセージだね。

中村さん…そうだね。二つ目は、一つ一つの失敗を軽く考えるのではなく、 だと考えて、その一つに集中することが大事だというメッセージだね。

土田さん…このメッセージを、父は言葉ではなく態度で示して、私はそれらを生かすことができたから、出汁巻き作りを成功させることができたんだね。

問九 この文章を、その日一日の出来事とそれ以降の出来事とに大きく二つに分けるとすると、それ以降の出来事はどこからになるか。本文中の【ア】～【エ】から一つ選び、記号で答えなさい。

三 人から信頼されるために必要なことを、題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、百六十字以上、二百字以内で書きなさい。

